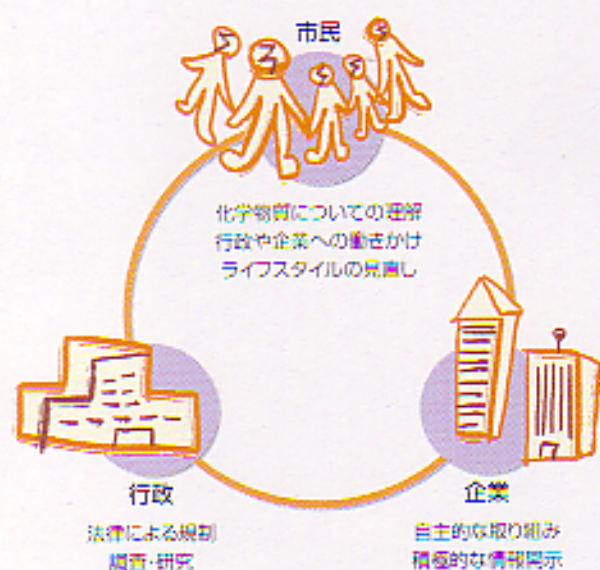


1	化学物質と環境汚染	3
2	「あの工場の煙突から、いつも何かが出ている」	4
3	「えっ、漏出事故？」	8
4	「自動車の排ガスや農薬散布が心配」	10
5	「家の中にあるたくさんの化学製品は大丈夫？」	11
6	リスクコミュニケーションのすすめ	12
資料	重要な用語の解説	15
	関係機関・相談窓口リスト	

毎日の暮らしの中で、私たちは化学物質に関するさまざまな情報に接しています。化学物質は私たちの生活を豊かにしていますが、その一方で、大気汚染や生活排水による河川の汚染、ごみ処理に伴い発生する有害物質、工場跡地で見つかった土壌汚染、住宅建材から放散される微量の化学物質、といったニュースが、テレビや新聞、インターネットなどで次々と報じられています。私たちの身近な環境が化学物質によって汚染されている事実を知り、「原因となった物質はどのような有害性を持つのか」「汚染は深刻なのか」「生態系や人の健康に影響はないのか」といったさまざまな疑問が生じ、不安をかき立てられることも少なくありません。

化学物質による環境汚染を少しでも減らしていくためには、化学物質の使用や排出を法律などで規制したり、企業が自主的に削減の取り組みを進めることも必要ですが、市民・消費者ひとりひとりが化学物質についての理解を深め、行政や企業に対して積極的に削減を働きかけたり、大量の化学物質使用に支えられた自らのライフスタイルを見直すことも重要です。

この冊子では、私たちが化学物質による環境汚染について不安や疑問を感じた時どうすればよいか、いくつかの場面を取り上げ、その対応のしかたを提案しています。「不安だけれど、何をしたらいいのかわからない」と日頃感じている方は、この冊子を読んで、まずできそうなことから始めてみていただければと思います。



この冊子は、化学物質による環境汚染や化学物質管理などについて市民向けに分かりやすく解説した小冊子「環境汚染と化学物質」シリーズのパート2です。パート1「環境汚染と化学物質—PRTR制度をいやすために—」については巻末をご参照下さい。

化学物質による環境汚染を減らすためのそれぞれの役割